

2019 年度活動報告

1. 自主防災組織全体

- ① 「新防災計画」に基づき、活動マニュアルを作成するとともに、自治会による避難所運営本部の役割分担について確認した。
- ② 6/8 日赤減災セミナー、9/28 防災訓練、1/26 救急救命講習会、2/1 防災住民意見交換会を開催した。
- ③ 9 月と3 月に防災の日と防災週間を設定し、「防災チェックシート」による点検を依頼したり、備蓄水の購入あっせんに取り組んだ。
- ④ 筑波研究学園専門学校を避難所として利用できるよう近隣自治会とともに土浦市長へ要望書を提出。現在、災害時の一時避難所として使用するための協定書が、つくば市、土浦市、学校の3 者協定として準備されているところ。
- ⑤ 災害時につくば市の井戸(桜ニュータウン北区)を利用できないか、つくば市と協議してきたが、結局この方向で行うことは中止し、新たにつくば市の補助金を利用して中央公園に整備する方向を確認した。
- ⑥ 人材バンク調査、及び台風による建物等の被害調査アンケートを行った。
- ⑦ 消火栓ホースのごみ置き場への追加設置を行った。
- ⑧ 自主防災組織のホームページを使って情報発信を行なった。アドレスは、<http://sakurant.org>
- ⑨ 開催した会議は以下のとおり。
 - ・役員会 8 回(4/27、5/25、7/27、9/21、11/30、1/25、2/26、2/29)
 - ・防災会議 3 回(6/29、10/19、2/29)

2. ひなん支援部会

- ① 災害時安否確認のための世帯調査とひなん時に支援希望する方の調査を行なった。
その結果、今年度支援が必要な世帯数は71 世帯で、80 名の方にサポーターをお願いした。
- ② 日赤による講習会(避難所で快適に過ごせるように、避難所の運営)を6 月に開催した。
参加者は35 名。
- ③ 防災訓練で安否確認を担当した。班長、サポーター、メールによって安否が確認されたのは85.2% (459/539 世帯)で、サポーターによる支援希望者世帯の確認は80.3%(昨年は39.1%)だった。
- ④ 支援希望者宅を3 回(6、10、2 月)訪問、ひなん支援部会を5 回(5、6、7、10、1 月)開催した。

3. 情報部会

- ① 広報活動:防災メールによるお知らせ・注意喚起を10 回発信。防災掲示板の有効活用と防災だよりの発行(5 回)。防災訓練時に返信のなかった方に再度防災メールを送り着信を確認した。
- ② HP の管理運営:行事の開催案内や防災だより等を掲載し、順次更新を行った。HP の2 月末までの訪問者は延べ1198 件であった。
- ③ 防災意見交換会はこれまでのやり方を変え、ゲームで学ぼう台風対策「経験したことのない大雨、その時どうする」をテーマに体験参加型セミナーとして実施した。参加者は17 名。

4. 訓練部会

- ① 防災訓練の実施:安否確認、災害対策用資機材の取扱説明と使用体験、防災グッズの展示、北区の消火栓を用いた放水訓練を行った。参加者は103 名。同日、宿泊を伴う防災キャンプを行った。
- ② 救急救命講習会:つくば市消防本部の指導による心肺蘇生(胸骨圧迫と人工呼吸)、AED の使い方を体験する普通救命講習Ⅰを実施した。参加者は21 名。
- ③ 消火栓ホースの追加設置:下広岡消防団の協力により桜 NT 内のごみ置き場5 か所に消火栓ホース5 本入りケースを設置した(8/25)
- ④ 備品の購入:簡易トイレ1 式、トイレ用テント1、トイレセット50 回分